



海へと続く



飛州新道



昭和 20 年代後半から 30 年代にかけて、鍋冠山、大滝山の脇を抜け上高地に至る「三郷スカイライン」の計画がありました。

その計画を 150 年ほどさかのぼる江戸時代の後期に、「飛州新道」と呼ばれる信州と飛州(岐阜県)を結ぶスーパー輸送路が開削されました。

その開削の目的、歴史、そして、かかわった人々の努力や苦難などについて学びます。

又重絵図

(文政期 1818~1823)

長尾組小倉村「中田又重絵図」(23から28歳)南小倉馬口から描かれている飛州新道。飛騨への峠も安房峠の位置に描かれている。

馬口⇒馬口入⇒三大路⇒商人岩⇒なめし頭⇒鍋冠⇒大滝山⇒上高地(徳沢)⇒安房峠越えとしている。

山中の道はほぼ確定していたと思われる。天保6年(1835)飛州新道として幕府の認可を受けている道筋とは異なる。「鷹巣見回り」としてのメモまたは、文政3年(1820)「新道開削願」飛州新道構想の原案・原図と思われる。

又重は山中を駆け回り、獵師や鷹匠、きこりとして、山中の道路整備に意欲的に取り組む。



○日時 令和 8 年 1 月 27 日(火)

午後 1 時 30 分~3 時

○場所 三郷公民館 講堂

○講師 千村 裕一さん

(安曇野市文書館職員)

○持ち物 筆記用具

○申込、参加費 不要

問い合わせ先

三郷公民館 白井

電話 77-2109

裏面もご覧ください